

CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築環境総合性能評価システム2016 名古屋中規模建物環境総合性能評価マニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-------------------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | (仮称)中村区役所駅前プロジェクトⅡ | 階数 | 地上10F |
| 建設地 | 名古屋市中村区上米野町一丁目30-3、太閤通三丁目25-2 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 商業地域、防火地域 | 平均居住人員 | 153 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 集合住宅 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2022年3月 予定 | 評価の実施日 | 2020年12月26日 |
| 敷地面積 | 1,611 m ² | 作成者 | |
| 建築面積 | 577 m ² | 確認日 | 2021年1月6日 |
| 延床面積 | 3,937 m ² | 確認者 | |

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE0.6 ★★★★★

★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

| | |
|----------|------|
| ①参照値 | 100% |
| ②建築物の取組み | 96% |
| ③上記+②以外の | 96% |
| ④上記+ | 96% |

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.5

| | |
|-------|-----|
| 音環境 | 2.4 |
| 温熱環境 | 2.0 |
| 光・視環境 | 2.9 |
| 空気質環境 | 3.0 |

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.5

| | |
|-----|-----|
| 機能性 | 2.4 |
| 耐用性 | 2.2 |
| 対応性 | 2.8 |

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.8

| | |
|------|-----|
| 生物環境 | 1.0 |
| まちなみ | 2.0 |
| 地域性・ | 2.5 |

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

| | |
|-------|-----|
| 建物外皮の | 3.0 |
| 自然エネ | 2.0 |
| 設備システ | 3.7 |
| 効率的 | 3.0 |

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

| | |
|--------|-----|
| 水資源 | 3.4 |
| 非再生材料の | 2.4 |
| 汚染物質 | 3.0 |

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.6

| | |
|-------|-----|
| 地球温暖化 | 3.1 |
| 地域環境 | 1.8 |
| 周辺環境 | 3.0 |

3 設計上の配慮事項

| 総合 | その他 |
|---|---|
| 住戸数が多く、間取りや広さも種類があり、いろいろな人々が生活する空間になるため、1階にラウンジを設け、人の交流や対話ができるスペースを設けることで、快適に使用できる建物とし、周辺環境にも配慮した計画とした。 | |
| Q1 室内環境 室内の居住性を考慮した採光、換気計画とした | Q2 サービス性能 天井高さをできる限り取るようにして、広さ感を出す計画とした。 |
| Q3 室外環境(敷地内) 景観への配慮や防犯カメラの設置など、防犯性にも配慮した。 | |
| LR1 エネルギー 一次エネルギー消費量を抑えることに寄与する設備選択に努めた。 | LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない建築材料などをできるだけ使用するように努めた。 |
| | LR3 敷地外環境 敷地内に住戸数分の自転車置場を設け、駐車場も出来るだけ確保した。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)中村区役所駅前プロジェクトⅡ

■使用評価マニュアル:




CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 重点項目 | | 評価 | 全体に対する重み係数 | 重点項目スコア |
|----------|-----------------|---------------|------------|---------|
| 1. 温暖化対策 | | | | 3.1 |
| LR1 | エネルギー | 3.3 | 0.4 | |
| LR3.1 | 地球温暖化への配慮 | 3.1 | 0.1 | |
| LR3.2.2 | 温熱環境悪化の改善 | 2.0 | 0.05 | |
| 2. 自然共生 | | | | 1.6 |
| Q3.1 | 生物環境の保全と創出 | 1.0 | 0.09 | |
| Q3.3.1 | 地域性への配慮、快適性の向上 | 地域性のある材料の使用※1 | 無 | 0.009 |
| Q3.2 | まちなみ・景観への配慮 | | | |
| Q3.3.2 | 敷地内温熱環境の向上 | 3.0 | 0.045 | |
| 3. 循環型社会 | | | | 2.6 |
| LR2.1 | 水資源保護 | 3.4 | 0.06 | |
| LR2.2 | 非再生性資源の使用量削減 | 2.4 | 0.18 | |
| LR3.2.3 | 地域インフラへの負荷抑制 ※2 | 2.3 | 0.01875 | |

結果

| | | |
|----------|-----------|--|
| 1. 温暖化対策 | 評価点 = 3.1 |  |
| 2. 自然共生 | 評価点 = 1.6 |  |
| 3. 循環型社会 | 評価点 = 2.6 |  |

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。